

## 続・三々な経営 ラスト(50)スパートの「はじめに」

企業経営漫談士 岡野実空

昨年末から年始にかけ、コラム『続・三々な経営』の新規掲載をしばらくお休みしておりましたが、今週より再開いたします。今後もご笑読のほど、よろしくお願いいたします。とはいえ私が担当するのは、残り50回、計300号まで。すでに次の執筆者が決まり、引継ぎを始めています。今回はそのパトンパスをしくじらないよう、これまでの流れを振り返りつつ、今後の予定をご案内します。そこで取り上げてほしいテーマ等、ご要望がありましたら、遠慮なくお申し出ください。

### その1: コラム掲載の目的

2017年2月より、MCNのホームページにコラムを掲載し始めた主な目的は、以下の三つです。

第一は、MCNのマネジメントの定本、『ゼミナール経営学入門』の脚注として。その初版は、バブル末期の1989年発行。いかに普遍性が高い内容とはいえ、その後30年を経て、加筆の必要な箇所が目立つようになっていました。

また第二は、それに伴う事例の追加。その後の社会や経済、技術などの変化を踏まえ、皆さまに近い事例を加えて、より実感性を高めました。

そして第三は、これまで私が接してきた、賢人の回顧録として。それは「四の五の」言っではいけないと、「三」の意義を啓発された日本IBMの北城格太郎氏を始め、最多のネタをご提供いただいた、三菱食品(旧菱食)の廣田正氏などの言動記録です。偉人たちに共通するのは、決して自己満足に陥ることなく、つねに向上への歩みを止めないこと。その方々に、本などを書くという、まとまった時間はありません。従ってだれかがその言動を書き遺さないと、極めて貴重な「知見」の数々がこの世から消滅してしまい、その後の私たち凡人が、つまらない過ちを繰り返すことになります。

### その2: 過去の流れと内容

以上を踏まえ、これまでのコラムの本流は、当初からのシリーズ、『三々な経営』150回でした。またその支流として書いたのが、『四字熟語で考える経営戦略』と『広告コピーで考えるマネジメント』の計50回。そしてそれらに加筆し、編集し直したのが、現在の『続・三々な経営』シリーズです。

因みにその直近10回は、皆さまの代表にもご参加いただいた、昨年の「具体⇄抽象」プロジェクト報告。また2本の支流は、それに先立つ「具体⇄抽象」の先行実験でもありました。

### その3: 今後の掲載予定

そして『続・三々な経営』のラストスパート50回では、時空間の篩(ふるい)にかかった「具体⇄抽象」の生きた化石、経営に関わる「名言」「諺」などを取り上げて行きます。またそこでは、これまでの250の中で、その「抽象⇄具体」の補助となるコラムを再度ご案内します。

その内訳はまず、私たちの定本『ゼミナール経営学入門』の章立てに沿って、計22回。その後は、いまの社会の混迷を乗り切るために、どうしても確認しておきたい、泰斗ドラッカーの経営思想に関わる名言をいくつか。そして最後に、第2走者への助走として、皆さまが今後、高度で広範囲な経営戦略を考える上でボトルネックとなる、「地政学」と「軍事学」の基礎知識を取り上げる予定です。

因みにMCNのコラム第2走者は、『ゼミナール経営学入門』を、「海外戦略」および「財務戦略」から補強するべく、すでに準備を進めています。先のTOKYO2020における陸上100×4リレー競技を教訓に、ベストのパトンパスを目指しますので、忌憚ないご助言やご要望をお寄せください。

ラスト50の初回を、あえてこれまでの振り返りや今後の予定案内、および皆様へのお願いに使用しました。次回からは、経営に関わる「名言」「諺」を取り上げてまいります。乞う、ご期待!?

2022年1月31日 実空

#### お知らせ

NPO法人マネジメント共育ネットワークは、おかげさまで昨年末、創立10年を迎えることができました。皆さまのこれまでのご支援に、改めて厚く御礼申し上げますとともに、倍旧のお引き立てを賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。